

第3回札幌市学校適正配置検討懇談会

日時：平成17年4月27日（水）午前9時30分～

場所：札幌市教育委員会6階 A・B会議室

1 開 会

事務局職員の人事異動に伴う紹介 他

2 議 事

(1) 第2回懇談会の議事内容について（確認）・・・資料1

(2) 統合の効果検証について

ア 学校統合に関するアンケート結果について・・・資料2

イ 資生館小学校の児童の様子等について（鈴木校長から）

ウ 協議

(3) 第4回懇談会の内容等について

3 第4回懇談会日程等について

4 閉 会

事務局 皆様おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。私は4月1日付けで配置計画担当課長に着任しました木村と申します。本日司会を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。

9時30分の定刻となりましたので、会議を始めます。

まずは開会に先立ちまして、会議開催の定足数について本日は委員15名中14名にご出席いただいています。懇談会設置要綱第5条2項に規定している定足数の過半数に満たしていることをご報告します。

また本日の検討内容が統合の効果検証ですので、前回の会議でご案内してありますとおり、資生館小学校の鈴木校長にご出席をいただいています。鈴木校長、自己紹介をよろしくお願いいたします。

鈴木校長 資生館小学校の鈴木と申します。委員の方々には先日視察をしていただきましたが、その時はいませんでした。今日はじめてご挨拶いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。続きまして教育委員会事務局でも4月1日付けで人事異動がありましたので、恐縮ですが部長職以上のみ自己紹介します。末廣次長からお願いします。

教育次長 4月1日付けで教育次長に着任しています末廣です。どうぞよろしくお願いいたします。

指導担当部長 指導担当部長となりました西村です。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 なお学校教育部長は北原に変わっていますが、只今別の会議がありまして、後ほど遅れて到着する予定です。事務局からは以上です。それでは、村瀬座長よろしくお願いいたします。

村瀬座長 それでは改めましておはようございます。平成17年度、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。座席も今回一新しまして、顔が見える会議になりましたので、またよろしくお願いいたします。継続して今年度も審議していきたいと思えます。

本日の進行予定ですが、ご案内にありましたように統合の効果検証というテーマで、議論を行う予定です。議論に先立ちまして、前回会議でスケジュールの確認をしましたので、そのスケジュールの確認を事務局の方から簡単におさらいの意味もこめまして話していただき、その後アンケートの結果を事務局から発表していただき、本日ご出席いただいています鈴木校長先生から児童の様子等を補足していただき、その後議論を行いたいと思いま

す。今日はこのような進行でよろしいでしょうか。

委員一同 異議なし。

村瀬座長 こんなことで進めたいと思います。それでは最初に事務局から説明していただきたいと思います。

事務局 皆様おはようございます。事務局、計画課配置計画担当係長の大谷です。私の方からまず次第の次のページ、資料1の「第2回懇談会で出された主な意見と質疑応答、ダイジェスト、要旨」ですが、これについて簡単にご説明します。資料は事前にお送りしていますので、お目通しいただいているかと思います。

こちらは第2回の前回の懇談会で主に委員さんの中から出された意見、これを何回で検討するかということを整理してまとめました。左側の項目というところをご覧ください。

上段のきめこまやかな教育について、例えば一番上に書いているように「統合前の小規模校の学校で、いわゆる教育上のきめこまやかさといったようなものを経験済みの保護者は、統合後もそのきめこまやかさを継続してほしいという要望が強いのではないかと想定されるため、少人数指導ということによって議案に含んだらどうか。」というような意見であったので、こちらは「きめこまやかな教育」というテーマで、第5回の懇談会に盛り込むということにします。それ以下の「きめこまやかな教育」で5項目ですが、こちらも同様に第5回の懇談会で検討させていただきます。

その次の項目の部活動に関すること、「部活動については、小規模校で教員が少ないため、子ども達が希望している部が成り立たないという状況もある。」との意見もありましたので、こちらと次の段につきましては、第4回の懇談会、次回「中学校の適正規模・適正配置」とテーマの回で検討したいと思います。

小規模校の教育環境について、こちらも前回の懇談会で意見がありました。こちらにつきましては第3回、今回です。このあと行われる「統合の効果検証」、この場でこのような点につきまして、皆様からご意見いただきたいと思っています。

通学環境について、こちらは第6回の懇談会、統合適正配置のことで考慮すべき事項として検討させていただくという、特認校に関してもご意見ありましたので、こちらと同じく第6回の「適正配置の方法」という方法論のことで検討します。

一番下の段の項目で「指導体制について」こちらの方は、第7回以降のまとめの会で検討します。

このようにこの懇談会では皆様から出された意見をまとめ、こういう形で整理し、貴重なご意見をいただいていますので、その点を整理して、このように整理していきたいと今後も思っています。

一番下の段になりますが質疑応答、質問が事務局にあったものがあるので、こちらにつ

いてもその質問と回答内容を文章化して整理しました。事務局の方からは以上です。よろしくをお願いします。

村瀬座長 事務局から前回の懇談会の確認、すっきりとまとめていただきましたが、委員の皆様これでよろしいですか。

委員一同 異議なし。

村瀬座長 懇談会の何回目にもこういうことを懇談するというのも、右側の方に対応も書かれていますので、今日は第3回ですから、小規模校の教育の環境ということで、今日はお話をさせていただくことにしたいと思います。

続きまして今日のテーマの「統合の効果検証」の一つの要素となるアンケート結果について、これは前回あるいはこれからの意見も振り返りながら、議論を行いたいと思います。アンケート結果につきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局 指導担当課指導担当係長の森岡です。私の方から学校統合に関するアンケートについて、簡単にご説明します。

今回のアンケートは平成16年度に統合された資生館小学校に関して、児童の様子の変化や、学校運営等について参考とするため、2年生から6年生それぞれ一クラスの児童、全教員を対象に本年3月に実施したものです。まず児童に関する調査結果についてです。

申し訳ありません。資料2の1ページ目、絵が入ってしまっていて、概要を示していますが、一箇所間違いがありましたので訂正ください。「委員会も活発になった。」というところは53%という数字になっていますが、そこを申し訳ありませんが、63%に訂正したいと思います。

その図を見ていただくとわかるかと思いますが、「人数が増えてよかった。」「遊び相手が増えてよかった。」あるいは「行事に迫力がでてよかった。」等、全体的な傾向として、統合に対して肯定的な意見が多く出されていました。

一に具体的な例をあげますと、資料2の4ページをご覧くださいませでしょうか。質問の4というところになります。子ども達の休み時間の様子について聞いた質問ですが、「遊び相手、遊びの種類が増えた。ともに増えた。」と感じている子どもが、それぞれ75.6%、55.6%を占めています。このことから子どもの活動の幅が広がっているということがわかるのではないかと考えています。

また次のページ質問5のところになります。こちらの方は行事について尋ねたものですが、こちらも「行事に迫力がでた。」「色々な行事が楽しくなった。」と統合による効果を肯定的に考えている子どもが多いという結果が出ています。

一方これらの質問の回答の中には、「以前の方が良かった。」との声もみられています。「人

数が増えて意見がまとまりにくい。」「人数が増えてやりにくくなった。」との意見が一部にでていました。

子ども達が統合について、自由に記述する欄、資料2の8ページにあたります。この欄には統合に対する子ども達の率直な意見が記載されていました。中には階段やオープンスペース等施設に関する意見等もだされていましたが、直接統合にかかわることでは、「たくさん友達が増えたからよかった。」「体育で対抗試合ができるようになった。」等肯定的に捉えている意見が多かった一方で、「行事が増えて大変。」「人数が多いとやりづらい。」等の意見も少数ですが見られています。

次に教員の統合に関する調査についてです。この調査に関しては、統合前の創成、大通、豊水、曙に勤務していた教員と、それ以外の学校に勤務していた教員に分けて集計を行っています。

問3から問12までは、統合に関する子ども達の様子や教育活動の様子について質問をしています。これらの質問においては「全体的に良い影響がみられた。」との印象をもっている教員が、「悪い影響があった。」と考えている教員を概ね上回っています。

資料11ページをご覧ください。特に問3、問4においては、「学校の活気」、「人間関係の影響」、それぞれ「活気が高まった。」「良い影響が見られた。」と児童数の増加を肯定的に捉えている教員が多くなっています。

これらの質問の中では、「どちらともいえない。」と回答をしている教員が多くみられています。これは1年間では十分に統合の影響をはかることが難しいと感じている教員が多いのではないかと推測されます。

問13から問18については、教員の公務等について統合の効果を質問したものです。これらの質問でも先程と同様の理由によるものと思われる。「どちらともいえない。」という回答が多くを占めています。「どちらともいえない。」という意見以外では、公務の分担、行事の負担について、軽減になるとの意見が、重くなるとの意見を数名ずつ上回っています。「負担が重くなった。」という意見に関しては、「学校の新設に伴う事務量の増加」、「学級の人数増に伴う公務量の増加」も影響しているのではないかと考えられます。

特に19ページの問17の「統合の必要性に関して」です。この問に関して「どちらともいえない。」が多数を占めていますが、これについては記述欄の方にもあるように、「小規模校、大規模校それぞれに良さがあり、一概にどちらが良いといえるものでもない。」と考えている教員が多かった等を理由に「どちらともいえない。」が多数を占めたものと思われる。

いずれに致しましても、児童、教員それぞれのアンケート全体を通して、今回行われた統合が、児童にとっては良い影響を与えたとの回答が多いのではないかとこちらの方では考えています。以上アンケート調査について簡単ですが、説明を終わります。

村瀬座長 ありがとうございました。アンケートの結果について、主だったところを今

ご説明いただきましたが、続きまして統合後の子ども達の様子の変化等も含めて、おいでいただいている鈴木校長先生から補足をお願いできればと思います。

鈴木校長 それではお話しします。普段はきっと逆の立場にあって、色々子ども達に話をしたりしているわけですが、後ろの方に委員会の方々がいて、ちょっと緊張していますが普段のままでいきたいと思います。

私は平成 15 年 4 月に、創成小学校の校長と統合校の開校事務取扱ということで発令されて、1 年目は二条小学校の仮校舎で創成小学校の閉校の作業と、開校の準備ということで勤務しました。2 年目は開校と資生館の土台づくりということで、1 年目を過ぎて、本日に至っています。

創成小学校に着任した時、私はその前は駒岡小学校という特認校で、70 名程度の児童で、組織されている学校でしたので、4 校の統合と開校について外野席にいたような感覚でみていまして、実際にこういう作業をして、色々なことを感じ取っています。

一つは二条小学校での、創成の子ども達の生活の様子をちょっとお話しします。仮校舎ということで、一つの学校に二つの学校が 2 年間入って生活したわけですが、これには非常に制約がありました。これについてはきっと教職員も制約がたくさんあったのだなと思っています。

私は 2 年目にそこに来たわけですが、非常に二条小学校の校長先生はじめ、職員の方々、色々と気を使っただいて、良くしてくれているのですが、やはり如何せん場所が足りなく、本当に行事等も制約があり、活動も思うようにいかなかったというようなこともあったのですが、非常に子ども達が明るく、非常に活動的であったのが印象的でした。

色々話を聞いていくと、前の校長先生のお話、考え方もあったと思うのですが、こういう環境に嘆いているよりも、この環境を子ども達の将来にとってプラスになるように努力していこうと、そして子どもの姿で保護者の方々に成長したということを伝えていこうということが非常に感じられました。

学芸発表会を教育文化会館でしたり、大通公園で学級写真をとったり、卒業式を時計台でしたりと非常に色々な工夫をして、子ども達のがびのびとすごせるようにという工夫がされていました。

スクールバスというようなことも 2 年間ありまして、そういう面では本当に市教委の方々、保護者の方々、地域の方々にお世話になりました。朝立っていただいたり、それから冬、除雪をしていただいたり、本当に周りから支えられて開校に向かったわけです。

なぜこのような話をしているかというと、あまり統合の心配はしなかったのです。こういうところから出来たのだから、きっと 4 校統合されても大丈夫だろうと、非常にちょっと僕もそういうような楽観的なところがあるものですから、何とかなるだろうと、きっと新しい施設の中でがんばれるだろうなということで、開校に向かいました。

統合されてから子ども達と地域、保護者の方々、それから関係機関の方と、色々な接触

をしていって、本当に4校が伝統のある学校でしたから、それぞれの学校文化があり、これを一つの学校にまとめ上げていくのは大変なことなのだなということを実感しました。

課題は本当にたくさんありました。このことについては良いことばかりではなくて、非常に課題があったということはお話したいと思います。おそらく今日までの委員会の中でもそういう話題があがったのかなと思いますが、職員に最初に言ったことは、とにかく子ども達の話の聞きなさいということと、保護者の方々、地域の方々のお話をきちんと聞きなさいということをお話しました。

色々な思いがあると思いますし、色々なことを学校の方に期待しているだろうということで、とにかく1年間はお話を聞くことで、そういうことでは学校評価は今回3月に、中間の学校評価が9月にあって、最終の評価は3月にやったのですが、保護者の方々にもしていただきました。

児童にも評価していただいたのですが、何かこう学校の動きが見えないというような本当に率直な意見も出てきましたし、子ども達の中からも色々な先程説明があったような話も出てきました。そういう面では期待が非常に大きいのだなと職員一同感じています。

ただ児童の様子を見ていきますと、私達が心配している以上にこの資生館小学校に適応していているということが非常に目に見えてきました。特に今年の1、2年生は本当の生粋の資生館児で4校を経験していません。3年生、4年生、5年生、6年生4学年が4校を経験しているわけですが、1、2年生を見ると資生館の子どもという感じで、勿論3年生、4年生、5年生、6年生も、もう大通、曙、豊水、創成という言葉が出てきていないような状況にあります。出てくるのは、教職員の中からです。もうそろそろそういう言葉をやめてもいいねという話はしているのですが、子ども達は本当にそういう面では溶け込んでもらっています。

視察をしていただいた時にもご覧になったと思いますが、学校の一つの教育理念として、夢かなう学校ということと、自立と共生ということ、オープンの校舎ということです。

最初にこの校舎に慣れたのは子どもでした。どんなに視察の方々が来ても、本当に最初は非常に落ちつかなかったのですが、挨拶をすると、また授業に集中できるというような子ども達が育ってきていると私は思っています。

これは教職員に常々お願いしていることで、他者を思いやる、他者を考えることができることが一つのオープンスペースの校舎の使い方のキーワードだと話をしました。教室間での声のトーンや、移動の時、隣のクラスが時間差で授業をしている時、トイレに行くとか、そういう時間があつた時に、どんな思いをしながら、どんな思いで移動をしていくか、そういうことがこの資生館としては子どもの姿になってみてもらえるような、そういう関わりをしていきたいねということですずっと1年間やってきています。

ここでは9月に先生方の職員会議の中で、教室の壁があつた方が良いという考え方と、この壁をないということの良い方向にとって、ないことをないという条件で、色々な教育活動を考えてみましょうということ、かなりの時間を費やして討議しました。先生方も

先程の話の中で、色々悩んでいますし、何でという気持ちがありました。

その中で非常に有意義な話し合いができて、これはないということ、ないという前提でこれがここの学校の良さだということ子ども達に話しをしながら、指導をしていこうということで、9月の時にそういう話をして今日までできています。

明日、「出発の会」というのがありまして、学年ごとに出発の決意をする会があるのですが、練習風景を見ても、非常に学年としてのまとまり、それから学校としてのまとまりがでてきたのかなと私は感じています。それは4校、小さな学校、少人数の学校の集まりということで、きめこまやかな指導という点からはまだまだ課題はありますが、統合していった一つの大きな良さが、こういうところに出てきているのかなと思っています。

先生方も最初は二者択一的なそういう考え方が非常にあったのです。「良い」、「悪い」、「こういう環境だからできない」、「この環境が変わればできる」というような考え方が非常に強かったのですが、色々な話し合いをしながら、横断的な発想というのですか、相対する考え方をどう融合していくかというところを話し合いながら、「それが教師のここでの資生館での見せ所だよ。」というような話をし、なんとかこの施設を活用していきながら子ども達を育てていっているような現状です。

勿論そういう意味では、PTAの方々にも本当に協力していただきました。わずか1年間の間に、ふれあいフェスタと、それからプール開放にもたくさんの方を動員していただきましたし、本当にそういう意味では私達が努力していることをご理解いただいて、かげで保護者の方々にも支えていただいているような印象を受けています。

指導に関しては、参観日の時には「うるさい」、「騒々しい」というようなことも評価の中に出てきましたし、「オープン教室を活かした教育活動が本当になされているのか。」というような話も出てきました。そういう面ではこれからも受け止めながら2年目にいきたいと考えています。

地域の活動としては、郷土の日、トークタウン、冬期防災訓練、ススキノ浄化作戦で、町内からも色々とお声がかかって、そういう利用の仕方をしていただいていますし、子ども会の方からも色々な意味でアプローチがあって、本当に地域と保護者と、学校が連携をとりながら、資生館の子ども達を育ててきていただいた1年間だと思っています。

私の印象としてはこの1年子ども達の「育ち」にとって良い影響を与えていただいたと思っています。課題はまだありますが、これらについては2年目以降職員一同解決していくような方向でいきたいと思っています。何かありましたら、また質問の中でいただければと思います。以上です。

村瀬座長 ありがとうございます。開校前の状況、二条小にいたころの状況から現在の状況、子どもの状況、先生方の状況、それから環境の活かし方、あるいは地域の方々、保護者の方々その協力のあり方とか、アンケートではわからないことが今の校長先生の話の中からうかがえたなと思います。ありがとうございます。

それでは、アンケートと今の校長先生の話も含めて、これから議論の時間にしたいと思います。今のご説明の中で、もしご質問ありましたら最初に出していただけたら、と思いますが。はい。

委員 今、鈴木校長先生から非常に我々がわからない色々なことをお聞きして、非常に頼もしく思い、これからも進めていただきたいと思います。

私自身このアンケートを見まして、大人が必要以上に心配がいらぬ位、子どもに順応性があったということを非常に安心しています。それと職員の方々の「どちらでも良い。」というこれは時間の経過で随時改善されていくのではないかという感じを受けています。

ただアンケートの中で、記述の中でちょっと気になったことが3つありますので、その点について直接統合という効果検証に当てはまるかどうか、それから次回の会議で討議することもあると思いますが、気づいた点を申し上げます。

一つ目は、子ども達も先生方もいってました「スクールバス運用の問題」、この問題をもっとつめる必要があるのではないだろうかということ。

二つ目が、「学校と地域社会との連携」について、これは18ページですか、元の4小(学校)の先生がいわれていました、「子どもの社会性、他人への思いやりの育成、そのためにPTA、保護者が関わる教育活動」このことについて、私は、確かに資生館は非常に良い活動をされていると思います。実態を私はまだ見ていませんが、前々からこの言葉がすごく長く言われていたのですね。言葉で言い尽くされない何かがあるのではないかと思います。そのために保護者、地域社会の学校への関わりやすい環境づくり、これをハード面、ソフト面で私は新たに考えるべきではないだろうか、統合の問題、これからの学校の問題に含めまして、何が重要かということで、ハード面では学校の中に常に保護者が、地域の人が集まれる居場所が欲しいのではないだろうか。

例えば資生館広場や図書館、学童保育の部屋、ランチルームのようなところに常時、地域の人達が来て、空いている先生方と懇談できるようなこと、この学校と地域の連携ということに対しては、相互の協力、信頼が得やすいように、常に地域の方達がいられるということが私は重要ではないだろうかと考えています。

ソフト面ではこれだけこの多様化した学習内容では、特に学校の安全を考える時に、学校の先生だけで考えるのは大きな負担だと思います。特に安全については地域の目が校内にあることが、侵入者にとっても心理的な圧力になると考えていまして、異なった目で学校を見ることも大切ではないだろうか。

したがって学校が閉鎖的にならないようにこれからも考えていくべきではないだろうか。その先生方の地域の活動への対応、何か学校へ地域のPTAだとか、地域の方達が行くとお客様といった感じで、訪れる方もそういう感じにいるということは、私は、もっとフラクにできるような学校に考えていただきたいと思います。幸いこの資生館は統合ということで余裕のスペースが非常にあります。一階の玄関口ビー、それから特に資生館のホールは非常に

良い広場をもっていると思いますので、そんなことも考えていただきたい。この辺はもつと詳しくは第6回懇談会の「考慮すべき点」でお話できると思います。

それから三つ目、教室廊下の壁がある方が良いという件ですが、鈴木校長の話でも、壁がないことが前提ということでありましたが、このことについて委員の方達にも知っておいていただきたく、申し上げますが、確か私の記憶では、札幌市は61年以降の学校について実施されていると思います。これは従来の画一的教室、学級王国の弊害を是正する考えから生まれたもので、現在は全国の小学校を見ても大体この形が一般化され、採用されています。現状では、学習環境としては良いのではないだろうかといわれています。

ちょっと非常に厳しい発言になりますが、先程の地域連携と含めまして、先生達の意識改革が、非常に私は大事ではないだろうかというようなこと、そんなことが今回のアンケートで、私の感想として、次回の参考になればと申し上げます。以上です。

村瀬座長 ありがとうございます。主にアンケートの結果に対する感想というようなことも含めまして、3点、スクールバスとか、あるいは地域との結びつきとか、オープン教室のことについてお話いただきましたが、校長先生から何かありますか。もしありましたらどうぞ。

鈴木校長 今、委員からご指摘あった教師の意識改革というのは、大切な部分だと私自身も思っています。特に教師の意識改革ができないと、新しいこういう施設をやはり活用していくことはできないと思っています。そういう面では本当に大事な言葉いただきましたので、また学校の方に帰って、がんばっていきたくと思っています。

スクールバスの運行の問題で、これはまた統合と子ども達の様子とはちょっと違うかと思いますが、養護教諭の方にちょっと子ども達の資料をとっておいてほしいということをお願いしているのですが、高学年になるとちょっと体格が良くなってきている子ども達が、うちの学校ではちょっと多いかと思っています。これは全く印象的なこと、印象の段階でしかものを言えないのですが、スクールバス、学校から停留所までの歩く距離というのが、普段というか、他の学校の子供達よりも歩く距離がちょっと少ないのかと思っています。

これは安全面とか、色々な別の面から、子ども達の成長ということから考えると、歩くことが大事かと思っています。ただ学校が非常に中心部にあるので、通学路の色々な安全性、環境面で、色々な課題があるのですが、1週間に1回位は歩く日があってもいいかなと、そういう話題があがっています。

あと下校時間が制約されていくというようなことがあって、放課後の時間の使い方等についても先生方の中から、もう少し柔軟な使い方できたらという意見もあります。

このあたり委員会の方とも色々お願いしながら、スクールバスの時間の調整は事前に行えるようにはなっていますが、このあたりが一つの2年目としてやっていかなければいけないことかなと思っています。先生方の中から、親の方々の中からも、スクールバスの

使い方については色々な意見がでてきているということが現状です。以上です。

村瀬座長 ありがとうございます。もう一つ地域の方が集まる教室というか、部屋はどうなのでしょう。

鈴木校長 ご覧いただいているようにPTAの色々な会合で来られた方々が、ちょうど職員室前の資生館広場というところでテーブルに座って会議をしていただき、そういう面では特別教室の数というのはそんなに他の学校とは変わらないのですが、多目的ホールというところが、非常に活用されていることをご報告したいと思います。

あと共有スペースで玄関のところ、図書館の使い方、これについてはもっともっと子育て支援施設に来た方々、保育園で子どもを待っている方々等の利用も含めて考えていきたいと考えています。

村瀬座長 ありがとうございます。よろしいですか。それでは今の一連の話の中から本当に子ども達が生き生きと、今先に教師よりも先に慣れて本当に嬉しいなと思うのですが。今のお話も含めて、先生方のアンケート、児童、子ども達のアンケート等に対する感想等ありましたら、他の委員さんどうですか、はい。

委員 私も、本当に大人よりも子ども達の方が順応性が良くて、あえて一言でまとめれば子ども達が良ければいいのではないかという意見が素直にあるのですが。オープンな教室ということで、子どもは何にもそんなに言っていないですが、先生方での話は、私達の世代があのような教室を使ったことがないので、使い方がわからないという点に尽きると思うのです。

子ども達にアンケートをとって、こんな教室をどんなふうに使っていったらいいだろうかと子どもの意見を聞いてみるとか、そういう方向にしていけば、私達の固い頭ではちょっと考えられないので、そんな感じでやっていけば、良い使い方がどんどんできていくのではないかと思います。

アンケート書類が届いてから、ちょっと見させてもらっていたのですが、やはり私の子どもは14学級、15学級が当たり前で、ずっとその中で私も見てきたのですが、学習発表会のせりふが一つしかないとか、写真が少ないというのは、私にとっては当たり前の事なので、二つもあって三つもあっていいわねというのがあるのです。また、子どもの生活環境や、価値観の違う子どもが混在しているから大変だという先生の意見もあるのですが、そんなの本当に当たり前ではないかなと思います。

家庭環境のことまで先生達にいわれてしまうと、私達もどうしてよいのかわかりませんので、お互いに先生方も親も子どもも選べませんが、私達も先生や子どもも学校は選んではいけないものですから、その辺は本当に幅広い人間関係ですとか、そういうのが体験で

きる、良いように、良いふうに捉えていった方が良いのではないかと考えています。

子ども達のアンケートの中で、「けんかが多くなった。」とあったのですが、良いことだと思いました。どんどんけんかして仲直りをして、糸がもつれたりそれをほどいていったり、そういう経験をたくさん積んで大きく成長していったらいいと思いました。以上です。

村瀬座長 ありがとうございます。私も委員さんがおっしゃったように他の学校でも当たり前といったらおかしいのですが、特別なことではないのではと思ったので、先生方のその経験というか、そういうようなこともあるのではないかと。

オープン教室というかそれも先程の詳しい委員さんのお話にもありました様に、61年から札幌市では開始されました。もともと加藤幸次（かとうゆきつぐ）という教育者が愛知県の知多半島で確かはじめたということで30年前話を聞いたことがあって。中学校はあんまりうまくいかなかったが、小学校は全国に増えたということでそんな話を本人から聞いたことがありました。

そういう意味で、オープンの教室も子ども達より先生の方がちょっと気にしているというような感じがありましたということで、子ども達の声も聞きながら取り組みをとらうご意見を頂戴致しました。それではその他の委員さん、はい。

委員 資生館小学校さんのスタッフの皆様、教職員の皆様、本当にご努力されているということで、敬意を表したいと思います。私の方から地域との関わりについてちょっとご質問したいのですが、統合前の4校でも、これまで各校の近隣の方から様々な協力があったと思います。

私の子どもの通う学校でも地域の特性を活かしまして、例えばたまねぎの栽培について子どもに指導するとか、あるいはものづくりとかご協力をいただいて、非常に教育効果をあげています。今まで4校の中でも地域の方のご協力あったと思いますが、統合されてそういった方々が継続して、教育活動にご協力いただいているのか、あるいはまた新たにそういったかたちをとられているのか、その辺をうかがいたいと思います。

村瀬座長 校長先生よろしいですか。

鈴木校長 4校の地域との関わりというのは、非常にたくさんありまして、開校1年目につきましては、ある程度こちらの方でちょっと待っていただきたいというようなことはありました。1年目の中で、できる範囲のことは受け入れましょうということで、そういう考え方で1年間やってきました。

ただ連合町内会が私達の資生館の校区の中に9つあって、その連町の中にまた色々な町内会があるということで、非常に大きな組織を抱えているという校区になっています。昨日連合町内会をまとめている方のところにご挨拶に行って、学校評議員という役割も含め

て、連合町内会の会長さんにお集まりをいただいて、今年2年目で地域との行事、地域との関わりについて、連絡会議的なものを開いて、色々のご意見をいただきたいということをお願いしてきました。近々それを立ちあげてもう一度地域との関わりをやっていきたいと考えています。

また学校としては3年目と、5年目に研究会をやるということで、これについては少し地域性を活かして、地域の人材を活用できるような、そういう総合的な学習の時間とか、生活科というようなあたりのことを、少し大きく全国に提案したいと。

全国という言葉は大それているのですが、そのぐらいの気持ちでやりましょうということで、あと雪まつりと協賛して、何か地域の方々も来ていただいて、芝生のグラウンドに雪が積もっていますので、そういう活動ができないだろうかとか、このあたり非常に先生方も2年目前向きになっていただいて、地域との連携がおそらく今年は深まっていくだろうと思っています。

村瀬座長 今まさに進められているというお話でしたが、よろしいですか。他の委員さん、はい。

委員 先程鈴木校長先生の方からお話の中で、PTAにつきましても大変学校の方針を理解し支えていただいた1年間だったということでお話がありました。本当にPTAの方も大変ご苦労されたのではないかと思います。それに関わりPTAの方に質問したいと思います。

鈴木校長先生の言葉の中に4校の学校文化があり、その調和に非常に腐心されたということでお話ありましたが、PTAの方でも同じように4校のPTAの文化があったのではないかと思います。その点大変PTAの調和といいますか、本当に大変なご苦労があって、PTA活動に鈴木校長先生に対する感謝の言葉になってあらわれたと思うのですがその辺のご苦労等具体的なことお聞かせ願えればとありがたいと思いますが。

村瀬座長 両方経験されているというか、PTAの方、お願いします。

委員 私は平成12年に娘が小学校に入りまして、それから閉校統合にずっと関わってきました。最初は色々ありましたが、一番有効だったと思うのが、1年前閉校のその1年間と同時進行で、4校の保護者が集まりまして、開校準備委員会でしたか、それを開きまして、それはとても良かったと思います。

本当に色々ありましたが、その中で意見調整、こういう環境の中にいるのだと子どもの通っていたその学校のことしかわからなかったので、その4校が話し合いの場とか、一つの方向性、一つの目標に向かっていける、その期間をもたせていただいたことは良かったと思います。

それに関してもっと前段階で地域、先程から町内会、地域のことも出てきていましたが、閉校統合を決める段階において、もっと連町とか、色々な保護者の方とか地域とかも織り交ぜて話し合いをする場所をもっていたいただければよかったかと一番強く思っています。

保護者の集まりなのですが、4校それぞれの思いがあって、最初かなり意見を交わし合うこともあったのですが、それはこれからも資生館小学校だからということで進めていきましょうと保護者の中でもそういう気持ちに切り替えて、この1年進めてきました。

2年目になったら、豊水とか、曙とかどうでもいいじゃない、私達もやめていきましょうということ、子ども達の方がすっかり関係なく馴染んでいるので、私達もやめていきましょうという気持ちにはなって、2年目もまたPTAの役員として関わらせていただいています。役員メンバーも変わりました。もっと去年できなかったことを今年はどんどん進めて、具体的に新しいことを進めていこうと、今みんなでがんばっています。

村瀬座長 ありがとうございます。よろしいですか。では今のお話からPTAというか、保護者の方々も、開校前から準備委員会、一緒に話し合う機会がもてたということが大事なことではないかということだと。

色々話せないことも多かったというようなこともお話あって、ご苦労があったのではないかと思います。また決める段階で、もうちょっと話し合いの密度濃くされる方が良かったのではないかとようなご指摘をいただいたと思います。それでは、その他委員の方いらっしゃいますか。はい。

委員 21 ページのこの内容を読みまして、下段の方なのですが、校長先生のお話をお聞きしながら、大変結果的には安心したのですが、対照的な意見がここで出ていまして、委員の方からもでていましたスクールバスだとか、オープン教室の件、それから階段、それから他のところではグラウンドの件、施設面なのですが、先生方の意識改革が非常なスピードで進んでいると、校長先生のお話を聞きまして、それで安心したのです。これは先生方こういう不満なり、この気持ちで日々授業なんかされていますと、結果的には子どもさん方にマイナス面がやはり及ぶのではないかとちょっと心配していました。

ただ校長先生も先程全国的な資生館小学校だという意気を非常に感じられましたので、安心しているのですが。先導的な複合施設としての役割、そういった意味も、本当に模範になるような、すすめ方をされているなというようなことを、校長先生の説明の中でお聞きしまして、安心をしたという気がしています。

感想が先になりましたが、お話の中で地域との連携の中で、2点学校評議員の関係と、それから居場所の関係がちょっと出ていましたが、学校支援ボランティアとこの2点、今後の検討の中にやはり入れていただければと。具体的に実際に色々な学校現場の小学校、中学校、高校あたりもそうなのですが、地域との連携といいましても、地域とは何であるかと、PTA、子どもさんのいらっしゃる保護者の方がどうしても中心になってしまいま

す。やはりちょっと違う視点が欲しいのではないかと。校長先生のお話の中で感じる事ができまして、すばらしいなと思ったものですから。そういった面で是非その辺話の中に加えていただきたいと思います。

村瀬座長 校長先生、学校評議員のことと学校支援ボランティアのこと、ちょっとご質問あったのですが、お話しいただけますか。

鈴木校長 学校評議員につきましては、先程もお話しましたので、是非立ちあげていきたいと思っています。

学校支援ボランティアにつきましても何かあるとPTAの方々に頼ってしまうというようなことがあるので。ただ非常に地域の方々の資生館に対する関心度というのは非常に高いと思っています。「何か困ったことがあれば言いなよ」ということを地域の方々から常日頃言っていたら、このあいだも卒業式に、以前4校の時はお餅がでていたのですが、「お餅がもし足りなかったら支援するよ」とかというようなことを言っていただき本当に助けていただいています。

そういう意味では本当に地域の中に色々な人材がいらっしゃるということで、まず学校としては、その人材を発掘しようということで考えています。あと色々な意味で、地域にも援助をいただけるように、今回も交通指導員という方にたくさん出ていただいて、要所要所に10日間くらい立っていただいたのだと思うのですが、非常に長い期間立っていただいて、子ども達の通学を見守っていただきましたし、そういう面では声をかけるとか色々協力していただけるような体制ができそうだという感触があります。連合町内会の方々と集まっていたらお話をしていきたいと思っています。

村瀬座長 ありがとうございます。今これらの事も進められつつあるということだと思うのですが。あとはいかがでしょうか。はい。

委員 このアンケートを見せていただいて、鈴木校長先生を中心とされた先生方のご努力によって、子ども達が統合によって色々課題はあったと思うのですが、肯定的に受け止めている子ども達が多くて、そもそも学校というのは集団の機能を活かして、子どもを育てる場であるので、これまでの学校規模適正懇談会の方でも、そういう様なことについて結論が出されていますが、そういうことが一つの表れとなって、子ども達の姿となって出た結果、こういうふうになっているのではないかと受け止めています。

一方で先生方は中間的な感想が多かったのですが、鈴木校長先生のお話を伺いまして、まだ1年経って色々な課題が山積している中で、「これは良かった。」とは言い切れない部分がたくさんあるのではないかと思います。

私自身も20年近く前ですが、手稲区にある稲積中学校の開校に関わらせていただいた

のですが、自分が1年たってこのようなアンケートをもし問われた時にどう答えるかということを考えてみたのですけれども、とても難しいなと、教員として答えるとすれば、稲積中学校の場合ですが、結局走りながら考えるというか、走りながら色々を作っていくというのはありまして、勿論開校準備ということで、校長先生、教頭先生が準備をされて、そういうものを受けて、我々教員は具体的にどうするかということになってくるわけですが、実際に教員が集まるのが2月位に集まりまして、ほぼ1ヶ月で開校の準備を具体的にすすめると。4月に子ども達を迎えることとなりますので、その当時を思い浮かべてみても、中学校ですから、3学年ありまして、学年が中心となって具体的にどうするかということで動くのですが、それぞれ1年、2年、3年が十分な連携をとれてスタートできたかということ必ずしもそうはいきませんでした。

まず自分の学年を、校長先生の全体的な方針を基にしながらも、4月始まるとすぐ具体的な話になり、修学旅行や宿泊学習、他の行事をどうするかとか具体的な取り組みをについて出てくるものですから、それぞれの分担の中で、いってみればゆで玉子の半熟にもならないような状況で1年が終わったというような感じがするのです。

資生館の場合もお話にもありましたように色々な課題を抱えて、まだ解決がつかないで1年が過ぎた段階なので、先生方もきっとこのようなアンケート結果になったのだと思いますが、ただ前向きな方向で取り組んでいると思いますので、子ども達のこの受け止めを、ある意味ではバネにしながら、さらに具体的に今課題となっていることを、教育委員会の皆様のご支援をいただきながらということになるのですが、取り組んでいくことになるのかと。これからの方向についても、やはり子どもにとってどうだったのかを中心に評価をしながら、学校の適正規模を基にした配置を考えていく必要があるのだと。その課題をこのあと第6回目にも検討することになると思うのですが、どこまでクリアできるかということについては、さらに詰めていくという必要があるかと思うのですが、そういうふうに感じています。

村瀬座長 ありがとうございます。アンケートの結果から感想をいただきまして、本当に目の前のことに追われた1年だっただろうによくここまで密度濃くすすめられているなと思いました。

先程校長先生もおっしゃったように子ども達の話聞く、地域、父母の話聞く、また校長先生、先生方の話を聞くという、その点も重要ではなかったかなと思っています。最後にご指摘いただいたようにこれからの方向としても、子どもにとって適正配置はどうかという、そのことはこれからもずっと中心において話をしていきたいと思いました。ありがとうございます。はい。

委員 自分がかつて大規模校を解消するために分離して新設する学校に行き、単独で分離する場合だとか、2校、3校の中学校から分かれてきて、集まる学校に行ったりだとか

を経験して、今回も4つの小学校を統合して一つの学校にするという意味でいったら、適正な規模の学校にすると、そういう学校に勤務した経験があるので、生徒の反応、職員の反応というのは、自分の経験を照らしてもっともかなと思いました。

ただ自分が経験したのと全然違うなと思ったのが、自分が体験してきたのは、分離しても大規模校を解消する、何校か集まるとしても母体校は残っているので、そういう経験と照らして今回4つの小学校がなくなったということがとても違うことなのだと感じました。

子どもにとっては確かに在校している間過ごせば、資生館小学校という名前が残る、今の3年生以上ですか、元いた学校というのがあるかもしれませんが、ただ地域の人にとって考えていけば、我等が学校という100年、50年経っていればそういう思いというのがなかなかと、消し去ることはできませんし、そういう思いをどうやって新しい学校につなげていくのかということが難しいのだということを考えました。

ハードな面で、前回の話し合いのこと、今回のアンケートのことを見ていると、統合することということと、教室のありよう、オープン化は、どの学校でも新しく作りかえてオープン化になれば、同じようなことが起きるわけですから、今回その適正にするという学級規模はどの程度がいいのか、その統合するにあたってどういうこと考えてやるべきなのかと、そういうようなことを考えていくのだろうということを思っていますので、中学校の場合は一体どんな規模が一番いいのか、統合していったらいいのか、自分なりに一所懸命考えているわけですが、小学校の場合でも校区のことがすごく問題だと思いました。

小学校の校区は中学校よりも小さいですね。そういうのを統合する時に、スクールバスだとか考えなければいけない。中学校だったらどうなのだろうと勝手に思っています。どういう広さで、学校を適性に配置するのか、今あるものをどうやってばらばらにしていったらいいのか、これを考えることはとても難しいと思いましたが、前回の懇談会の中で他の県、あるいは首都圏で既に実施したということも実際ありましたので、そういうことも十分考えながら、参考にしながら、自分なりに意見をつくれたらいいと思っています。

どちらにしろ、鈴木校長先生をはじめ今資生館でされていることは、色々な意味で、我々にとって先進的というか、やってらっしゃることなので、これからやっていくこと一つ一つ我々も参考にしたいと思っています。貴重なアンケートをありがとうございました。

村瀬座長 ありがとうございました。小学校と中学校の違い、これからの課題は4回目にあると思いますので、よろしく願います。はい、その他は。

委員 先程よりオープン教室にことが度々でていましたので、お話ししたいと思ったのですが、オープンもよし、閉じているのもよし、ということで、今資生館にあるのは可動式のちょっと丈の低いパーテーションのようなもので、一応閉じることもできるのですが、今、校長先生のご指導で、オープンでやっていこうとなんです。

やはり子ども達にききますと、「うるさい。」、「子ども達の声がうるさいというより、隣の先生の声が、さらにもっと向こうの先生の声も全部聞こえてくる。」という中で、参観を
していても、よくこの中で授業ができるなと度々感じています。

常に開け放しというのもあれなのですが、可動式でもう少し音が聞こえないようにできる
教室が一番いいのではないかと。どちらにも使えるもの、これから作っていただくのだ
ったら、ちょっとニュースで見ましたが、今年新しくできた屯田北小でしたか、あそこの
可動式のパーテーションは高いですね。そこら辺は考えていただいたのかと思うので
すが。やはり資生館はもう少し壁が欲しい時もあるなと思いました。

村瀬座長 ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございます。今後に活か
していただけたらと思います。はい。

委員 2点ほど簡潔にお聞きしたいと思います。学校評価を9月と3月に行われたそう
ですが、9月と3月で変わった点、変化した点、こちらをお聞きしたいというのが1点。

5ページのアンケート結果にもあるのですが、例えば「迫力は出た。」が、あるいは「活
動が活発になった。」という意見は多いのですが、「楽しかった。」「変わらない。」という
意見が半分を占めているということですね。これに対して学校側としては、今年度これ
に対しての対策ですとか、校長先生のお考えとかがありましたらお聞かせいただきたいと
思うのですが。

村瀬座長 はい校長先生よろしいですか。

鈴木校長 学校評価の件につきましては、9月に出たのは、今先程お話したように、オ
ープンの壁の問題で、そういう環境面の中での色々な課題についてでした。

最初の活動にしても初めてのことがたくさんありましたので、例えば運動会のこととか、
芝生のグラウンドの使い方、そういうようなことについての色々な成果と課題ということ
について、途中経過としてできました。

指導のあり方というか教室サイドの指導のあり方についても中間では出てきています。
最後の3月ではオープンについてはもう話題にはあまり上りませんでした。どんな使い方
をしていくかということが話題に上っています。2年目に向けてどんな使い方をしていっ
たらいいのだろうかということで話が出ました。

色々な課題が出てきたのですが、2年目に向けて子ども達をどうというような2年目の積
み重ねをしていくかということで、話題が出ています。こういう面では中間の時よりも、
共有化していく指導についても、元4校から来た先生方が、他の学校からきた先生方が本
当にたくさんの学校を経験された方が一つに集まってきました、それを同じ姿勢で、同じ
視点で見えていかなければいけないという、非常にたくさんの方が話題となって出てきま

した。

それに向けて行事計画等も立てているところです。5ページの「迫力が出た。」ということで、「どちらともいえない。」ということだと思のですが、たくさんでやった結果の楽しさと4校で100人程度の規模でやってきたその活動は、それはきめのこまやかさでは色々問題があるというように評価でも踏まえています。もう少し活動をきちんと見直していこうということで今回話しています。

2期4分節ということで、活動評価は2期制なのですが、2期で評価をしていきながら、4つの文節に分けて、その4つ毎にもっと各教科を細かくやろうということで今回確認しています。今回は2回の学校評価だったのですが、4回に分けてもう少し具体的に子ども達の姿をきちんと把握して次の分節に行こうということで話をしています。

村瀬座長 ありがとうございます。今の、委員さんの話で「人数が増えて行事が楽しくなった。」というのが少なかったということで今年は、2年目、「色々な行事が楽しくなった。」ということは多いのですが、「人数が増えて行事が楽しくなった。」と2年度以降いけたらいいということをご指摘いただいたと思うのですが。ありがとうございます。はい。

委員 私は4校の一つにいましたので、送り出した元教員として、子ども達がこの1年どのように過ごしたのかなということが大変気になっていました。アンケートや鈴木校長先生のお話から、大変本当に内容の濃い1年だったのだと思って、また私がいた学校からも3人の先生が資生館小学校に行きましたし、その先生方がどのようなお考えしているのかというようなことも、大変気になったところであります。

どの子ども達にとっても本当に楽しく満足のいく学校であるということは、それは統合校とかそういうことではなく、どの学校でもそういう姿であるべきだと思っていますし、そしてどの場合でも子どもの姿で、スタイルで示していくというのが、学校経営するものの一つのコンセプトではないのかと考えています。

その中で統合の検証という視点でこのアンケートや子どもの姿を見ていった場合に、やはり子ども達の数が増えたことによって得られたたくさんの経験というのは、ものすごく価値のあるものだったのではないかと思います。例えば最初お話にありましたように、「まとまりにくい。」「けんかが多い。」、それから「やりにくいことも発生した。」というのは、それは子どもにとって今まで体験できなかった新たな価値づくりの一つではないかと思うのです。

6年間固定した人間関係だとか、固定した役割の中でいくのも一つの体験であったかもしれないのですが、子ども達の人数が増えることによって得た活動の広がりというのは、またそこでは得られなかった、大きな経験ではないかと、私はこのアンケートや、学習発表会というのを見させてもらったのですがその時に感じました。

「台詞が減った。」ということは子どもにどうのっていうことではなくて、やはり活動がダイナミックになり、色々な体験ができることで得る価値の方が大きいではないかと、子どもが生き生き活動して、そして舞台から降りて、そして教室に戻る姿を見た時にもそんなことを感じました。

人数が少ないと体育の時にサッカーもできませんでした。試合ができないのです。ようやくバスケットも5、6年でやっとできた。やはり色々な教育課程上の課題もたくさんあったかと思えます。小さい学校はたくさんあり、その中で狙いに特化したやり方はたくさんあると思うのですが、子ども達がまたやりたいスポーツがたくさんできたってことも、遊びができることも一つ良かったのかと思っています。

今年1年間だけ体験して卒業していった6年生が、どんな思い出を残しながら、去っていったのかな、中学校に進学していったのかなということも、ちょっとそのあと気になって、追跡できたらいいのかななんて思っています。

小学校時代は十何人で過ごして来て、中学校でいきなり大人数になった時に、かなりプレッシャー感じ、抵抗のあった子ども達も以前には聞いていましたが、こういう中で進学していくとまた違うのかなとも感じたところです。

いずれにしてもこれからもこの時期にとったアンケートと子どもの姿と、またこれからとっていく色々な検証結果というのは違うと思いますので、そのあともまた見ていきたいと思っています。

先生方の様子で、やはりすごく前向きに考えていらっしゃると思えました。その中で元4小の先生の言葉の中に、単に子どもの数だけで統合を考えるのではなく、様々条件を考慮に入れた上に、つまりその総合的というようなお考え持って、もっともだと思えます。地域毎の歴史もあり、私がいた学校の時には、地域の方が学校の歴史の語り部、地域の語り部となって学習に参加していただいた経験がありましたし、そういうようなことも学校づくりの中ですごく大事なのだらうと考えているところです。感想も含めてです。

村瀬座長 ありがとうございます。小規模校から適正規模に異動された先生の前の状況から見た子ども達ということでお話いただきました。私もこのアンケートは、委員さんがお話ししたように、目に見えるものと見えないものと、あるいは意識的に身につくものと無意識的に身につくものと、このアンケートから見えない部分がたくさんあると今お話いただいて、そのことをあらためて感じた次第です。

宿題ではないですが、これからの検証結果も十分見させていただくとしたらおかしいのですが、大事にしていきたいということで、1年目、2年目、3年目という、そういう流れの中であるいは1年半後、2年半後そういう検証結果もできれば提示していただければと思います。最後にそのお話いただいた、子どものこのアンケートに私も印をつけておいたのですが、子どもの数だけではなくて総合的に考えた適正規模というそのことを忘れないでいくことが大事な点ではないかと思っています。その他委員さん、はい。

委員 今の委員の発言にも補足する形にはなるかと思うのですが、私も全く子どもの数だけで、統廃合ということを決めるというのはやはり考えた方がいいのではないかなという意見をもっていて、先程中学校の校区ということも一つ出たのですが、いうなれば校区の広さの問題にも関わってくるのですが、少なくなったから一緒にどこかに集めてしまえばいいという考えは、ある意味管理する側からの視点というか、考え方がすごく偏っているような気がしまして、アンケートの中には、集団を大きくすることによってのメリットという部分もありますが、ある意味小さくある学校のこまやかなという部分もあったりしますので、小さいは小さいなりの良さを、大きいは大きいなりの良さということを考えて、統廃合を考えた方がいいというのが、私もその方がいいだろうと考える部分です。

それに向けて、いうなれば学校のあり方を大きくすることでのメリットを重視することとの学校のあり方と、小さいながらもいい学校の姿という部分の、二極といたらあまりにも両極端ですが、そういうものが地域の中に二種類といたらおかしいのですが、多様な子ども達をとりこませるためには、そういう学校のあり方も考えていいのではないかと私は思います。

これからの学校の中で、子どもをとりまく事情というのは多様化してきていて、子どもの質的にも色々今いわれます高機能軽度発達障害児のことですとか、あるいは学校の中でも、学級の中でも少人数制がいいのではないかとか、あるいは習熟度別の選択制がいいのではないとかいわれている中で、ただ単に大きな集団にしてしまえば、そういった多様な面で先生方がフォローできるかといったら、そうではないような気がしますので、そういう意味では地域の中での学校のあり方をもう少し良く考えて、統廃合をすすめた方が良いのではないかと私は思いました。

村瀬座長 ありがとうございます。地域の実情、子どもの実態、それから教育方法、教育内容そういうようなことまで踏み込んで、物理的に少なくなったから大きい学校でとか、そういうようなことが、さっき言われたようなことで、一貫して話し合っているのは子どもの教育環境を良くするという、我々最初の時に確認したように、はずさないというようなことが大事ではないかと思えます。

ちょっとある人に聞きますと、例えば小学校、どちらでもいいのですが、4校が1校になったら、先生が増やせるということをどこかで聞いたのですが、校長先生になろうとしている方には申し訳ないのですが、統合によって3人校長が辞められたら若い先生が6人雇えるといったように、そういうことで先生は数が多くなって、子どもの環境が先程おっしゃられたように、少人数とかそういうことをいわれたこともあって、なるほどそういう面もあるのだなと。

統廃合について、予算の面というか、そういう物理的な面でも、そういうような効果は大きいということは、私は以前に聞いてなるほどなあと。単純に物理的なことではないの

ですが、そういう先生方のきめこまやかさと先程おっしゃっていたので、そのことも可能になるということもあるのではないかと思います。

でもいずれにしても子どもの環境を良くする、教育環境を今より良くするというそのことの視点は忘れてはいけないのではないかと思います。はい。

委員 アンケートを見せていただいて、子ども達の人間関係、それからこの活動の様子等が、活発になったということに関しては子ども達のそのアンケート内容も、そこからその先生方、教員のアンケートの内容を見ても、大概というか、概ね良い効果をもたらしたと考えられるのではないかと思います。

やはりその統合が良かったかということは、子ども一人ひとりの学習効果がどうあがったかということも、非常に重要な問題だと思いますので、その辺をみると、マイナス面としてはやはりきめこまやかな一人一人に個別の指導が減ったというようなことが書かれていると。

しかし片方で集団としての学びといいますか、様々な意見を聞いて良いというようなその子どもの反応もあるようですし、先生達のそういう資料の13ページあたりからですと、そういうことがみてとれると。これは、私はとても大事なことだと思うのです。つまり自分の個別の能力を高めていくということは勿論、非常に重要なことではあると思うのですが、その自分では思いもしなかった意見をその他の子どもが言ったと、他の子どもがそういう活動をしたことによって、こういうこともあるのだということに気づくことができることはとても大事だと思います。

私事ですが、小学校2年生の時に今でも非常に印象的に覚えているのですが、あるクラスメイトが言った意見に対して、自分は思いもしなかったのですが、担任が「すばらしい、ダイヤモンドの意見だね」と言ったのが、非常に印象的で、ああいうのがすごく良い考え方なのだなど、自分はできなかったのだが、ああいうふうに考えてみるのが大事なのだなというふうに、学び方ができたように思います。

それは非常に私事なのですが、ただ残念ながら集団としての学びというものと、個別指導というのは、どうしても両立しにくいところはあると思います。ですので、ここは色々な対応の仕方はあるかと思うのですが、例えば保護者の協力を得るであるとか、しばらく前に新聞で見たのは、大学生のボランティア、教職課程をとっているようなそういう方々に入ってもらって、先生達が間に合わない部分を助ける、カバーしてもらうなんていう対応の仕方もあるようですし、ぜひ先駆的な小学校ということですので、そういうことも考えてみていただければということと。

それから、もう一点ですが、私も大学で学生と対応していて思うのですが、一人一人に対応してあげられれば、もっと伸びるのにという先生達の思いは、大変切実ではないかと思うのです。それはやはり教育活動の中でストレスに感じる、もっとこうしてあげたいのにできないという思いをストレスに感じると思いますので、その辺はぜひ先生方で、先程

そういう試みなさっているというお話でしたが、悩みを話し合い、校長先生は保護者や児童の意見をちゃんと聞いてと、先生方にもおっしゃっているようですが、先生方の意見もよく聞いて、それでみんなで一人一人が抱え込まずにみんなで解決していけるようなそんな体制を築いていただければと思いました。

村瀬座長 ありがとうございました。相反する両立しづらい面もあるということで、そういう点では、保護者とか、札幌の大学生とか、本当に今色々な町から教育大学にも随分学生ボランティアの要望が来ているのですが、そういう補助とか、そういうことも考えてはどうかと。それから一人一人に対応すれば伸びるのではないかと、そういうことも先生方の悩みは十分お聞きになっていますかと。校長先生いかがでしょう？

鈴木校長 21 ページの「先生方の統合についての意見があれば自由に記入してください。」というところで、元4小以外のスクールバスからはじまる一番上の教員の意見などは、普段からこういうことを話していくことが大事なのかなと思っています。

今お話されたように、教職員も先生だけではなくて、用務員、事務職、栄養士、学校勤務医、全て新しい経験を1年間してきて、これで良いのだろうかということが常にあるようです。

こうやってバトルをできるような、そういう人間関係が一番いいのかなと思いながら、結局校長先生は頑固だということで終わってしまうのですが。でもそんなことを言い合いながら、話を聞いていく、教職員の思いもきちんと受け止めていくことが大事だとお話をうかがいました。

村瀬座長 ありがとうございました。やはり先生方の元気がでないともども達の元気もでないと思いますので、そういう意味では元気ができる環境をとということをお話していただいたと思います。あとどうでしょうか、大体お一人ずつお話いただいたのですが。はい。

委員 学校の統合を考える場合、特に地域との関わりということは、非常に重要な位置を占めることだと思います。地域との連携というのは、非常に前々からでてくるのですが、具体的にどう活用するか、については、なかなかこれは実際にはすすめられていないといってもいいと思います。地域に求められるというものというのは、地域の教育力、あるいは安全の確保という面からは、地域の協力は欠かせないものだと思います。

そういった中で何が最も大事かということ、学校と地域の方々との信頼関係の構築ということが非常に大事だと思います。これは校長先生が例えば、3年ないし、4年位の任期の中で、そういった人間関係を構築できるかということと現実には非常に難しいと。それを何とかするという事は、これはそれまでの歴史的背景があるということだと思っております。そういった人間関係を校長先生から校長先生へと引き継いでいくということがあるのかと思

います。

具体的な例としては安全確保という面で言えば、例えば通学指定区域内を交通量の変化等に応じて、例えばここに信号機、横断歩道、歩道橋を設置していただきたいとか、そういった要望、陳情等については、学校と地域が協力してすすめるというようなことがあげられると思いますが、そういったところまで行き着くまで、特に新設校に関しては非常に大変だろうと思っています。特に資生館小学校さんの場合には9つの連合町内会さんにまがっているということですから、これは本当に大変なことだろうなと思います。

私のところも2つの連合町内会さんにまがってしまっていて、連町さんとの間にちょっと温度差があるので、対応が難しいということで、現実にはスクールゾーン実行委員会とかそういった中で交通安全だけでなく、色々なことについて話し合いをしていくというようなことがございます。

まとめますと学校統合等を考える場合には、これまでの地域との関わり、歴史的背景等を十分考慮にいった上で、地域のご了解、あるいは協力を得られるような形ですすめるべきだと思います。

村瀬座長 ありがとうございます。地域は移動しませんので、そこで歴史的背景、教育力、そういうようなものもきちんと活かしながら、もう一つ大事なことは信頼関係の構築をしながら、それを引き継いでいくという、色々な面で、引継ぎをしていくといたらおかしいのですが、積みあげていくことをしっかりしていくということだと思います。

ちょうど時間になったのですがどうしてもという方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

確認をしたいと思いますが、いくつか留意すべき点ということもあげられましたが、小規模校から適正規模校とした今回の資生館小学校の例ですが、私も思ったのですが子ども達にとって、統合の良い結果があらわれているというような印象を持ったのですが。各委員の皆様は今のお話の中でも、マイナス面も勿論感じられるとアンケートの中から出たのですが、全体的にはいわゆる統合の良い効果が感じられてきたなとそういう印象をもちました。適正規模の教育がこれからも進められていくことが望ましいということでこの懇談会では共通理解をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員一同 異議なし。

村瀬座長 先程いくつか確認されましたが、これからはいわゆる適正規模のこと、望ましい子どもにとって、適正規模の望ましいということですのですすめていただきたいということ、今後統廃合を行う際の留意すべき点もでしたが、わずか1年間しか経っていないのに、資生館小学校の統合後のすばらしい教育活動が行われているということが、今日本当に鈴木校長先生をお迎えして、我々共通理解できたのではないかと思います。

今日でました留意すべき点、改善すべき点等については、6回目以降の「適正配置における条件整備」の際に話し合いをしますので、そういうところでまた整理したいと思います。

今日ずっとお答えいただきました鈴木校長先生から、これまでの感想等を一言いただけたらと思いますが。

鈴木校長 本日はたくさんの貴重なご意見をいただいたと思います。委員の方々のお話を聞いて、これから改善しなければならないこともたくさんあると思いました。このような懇談会に出席させていただきまして本当にありがとうございます。

「子ども達の姿で」とか生意気なことも言いましたので、色々な催し物の度に委員の方々をご案内しようかと思っています。実際に見ていただいて本当に子どもの姿がどう変わっているか見ていただければと思っています。4月になってから2年目であり、子ども達も少し変わってきているよね、という話が職員室でも話題にあがってきていますので、そんな姿を皆様方に是非見ていただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

村瀬座長 どうもありがとうございました。引き続きその子ども達のために素晴らしい学校づくりをお願いしたいと思います。今日の第4回の時間も少なくなってきましたので第4回目の懇談会の内容について事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局 次回第4回目の適正配置検討懇談会では主に中学校の適正配置について議論をする予定をさせていただきます。

中学校の部分につきましては、平成12年の適正規模検討懇談会では未整理であったところですが、中学校におきましては、教科担任制を採用していること等小学校とは異なる部分も多くありますので、ここで事務局からの提案ですが、中学校校長会を代表してこの検討委員にご参加いただいています小山委員、里谷委員の方から中学校の現状を次回ご発表いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

村瀬座長 各委員のみなさんよろしいですか。

委員一同 異議なし。

村瀬座長 それでは、小山委員、里谷委員よろしいですか。

小山、里谷両委員 了解しました。

村瀬座長 次回発表いただくということで、ご準備いただきたいと思います。あと各委員から本日の議事に関連して何かありましたらどうぞ。前は机の配置についてありましたが今回はありませんか。これでよろしいですか。

それでは、今日は本当に進行役の私も困らない程度に皆様率直なご意見いただきまして、ありがとうございました。次回もこのようにご協力いただけたらと思います。それでは、本日の議事のまとめを副座長からお願いします。

佐藤副座長 本日、鈴木校長先生にいらしていただいて本当に貴重なお話を伺うことができまして誠にありがとうございます。

お話を本当にたくさんいただいたのですが、要約しますと、まず非常に児童は期待以上に適応していると、統合については良い影響を子ども達に与えることができたというお話だったと思います。

ただ一方で先生方は慣れるまでにはまだ多少の時間がかかりそうだというお話でした。続きましてその意見なのですが、今日は本当に皆様色々な意見を出されていて、まとめるといってもなかなか難しいのですが、5点に分けて要約します。

1点目は子ども達がどうなっているかですが、心配なく適応できるようだというご意見が多かったと思います。例えば、けんかその他まとまりにくいといったような感想もプラスの経験であるということです。

2点目は学校についてですが、学校については、ハード面、ソフト面というお話がでていました。

ハード面について4点ほどあったと思います。1点目はオープン教室の件です。良さを活かしていこうという意見もある一方で、クローズにもできる仕切りというのがあった方がいいというご意見もありました。2点目はスクールバスの件、これは今後も検討していかなければいけないという件です。3点目は校区の問題が大きいということであり、校区の問題を検討していかなければならないということ。4点目は校内に地域、PTAの方々が集まれるようなスペースを確保していくということが必要なのではないかというご意見がありました。

ソフト面では3点ほどにまとめましたが、1点目はその先生達の意識改革というのが必要なのではないかというご意見があるという一方で、その先生方同士の交流を促進していくというのが必要なのではないかというご意見もありました。2点目は、先生方に限らず、PTAを含め、地域含めて状況を前向きに考えていく姿勢が必要であると。それから、3点目は大変共感できる場所があったのですが、集団としての学びの重要性を強調されたご意見もありました。

抽象化してみますと学習面の工夫というのが、重要であるというご意見あります。以上、学校につきましてはハード面で4点、ソフト面で3点にまとめられるかと思います。

3点目、PTAにつきましては様々な課題があったと、今後もありうると思われるわ

けですが、その統合へ向けてそのPTAの統合も促す工夫というのがなされるべきだというご意見だったと思います。

4点目の地域社会については、連合町内会との連携であるとか、人材活用、学校支援ボランティアを促していく工夫というのが必要であると。その中ではいわば学校と地域の信頼関係というものをもっと構築するということが必要であるというご意見でした。

5点目はまた後ほど時間をとって議論されることになると思いますが、統廃合の具体的な方法について意見が一点でていまして、数だけで決める統廃合はどうかと、校区と地域との絡み、小さい規模のメリットにも配慮すべきだというご意見がありました。以上です。

村瀬座長 ありがとうございます。すっきりとまとめていただきました。それでは事務局からお願いします。

事務局 次回の開催日時ですが、今回同様、皆様に事前にお渡ししています日程調査票に基づきまして時間を調整いただきまして、決まりましたらあらためましてご連絡したいと思います。なお開始時間につきましては本日と同じに午前9時30分からのスタートを考えています。よろしくお願いします。

村瀬座長 大体5月末位ということで、次回スケジュール調整後、事務局から皆様にご連絡していただくということになっています。なお、次回の懇談会も毎回了解を取っているのですが、特に皆様の異論がなければ公開とします。よろしいですか。

委員一同 異議なし。

村瀬座長 それでは、次回も公開ということで、他に何もなければ、これで閉会とします。今日はありがとうございました。最後に事務局から何かございますか。

事務局 事務局からも特にありません。本日はご多忙の中ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。

(以上第3回懇談会終了)